

北 総 の 力

～思いを伝えるチーム ほ・く・そ・う～



確かな学力を身につける算数科学習のあり方

～旭市立干潟小学校の学力向上に向けた取組～

旭市立干潟小学校における「ちばっ子の学び変革推進事業」の取り組みについて紹介させていただきます。干潟小学校には、当初、次の3つの課題がありました。

- ・難易度の高い問題において意欲が低くなってしまふ。
 - ・解決に必要な情報を見極め、その情報を基に立式し、答えることに課題がある。
 - ・対話活動で学びの深まりが見られない。
- そこで算数科を中心として次の3つの柱をかかげ、授業改善に取り組みました。

【素材や問題提示の仕方の工夫】

- ・日常生活に関わるもの、目的意識を持って解決ができるもの、多様な考えで問題解決ができるもの等、素材自体を工夫する。
- ・図だけ提示、一部だけ提示、間違った解き方を示す等、素材のよさを引き出し、興味関心を引き出す提示の仕方を工夫する。

【問題を整理する力をつける工夫】

- ・わかっていること聞かれていることを明確にする。
- ・数量関係を数直線や4マス関係表で表す。
- ・言葉の式で表す。

【対話活動の工夫】

- ・意見交流の目的と方法を明確にする。
- ・発達段階や目的に応じた対話活動の形にする。
- ・話形やセリフ集を提示し、整理して自分の考えを発表することができるようにする。
- ・話し合いで気づいたことを自分の言葉で説明する。

計算の かんたんさ	答えの 正かき	目的 100円以内	(〇△×をつけた理由、発見したこと)	
元の おだん	X	△	X	→元のねだんとあん算ど 計算するのがむずかしいから。
はな	9	X	X	→およそで計算しているから。
えさん	0	X	0	→99めに計算しているから。

マトリックス図を用いた対話活動

他にも、「掲示物を作成し、実践モデルプログラムをもとにした算数科授業の流れについて共通理解を図る」、「ノート型の型を作成し、板書との整合性をもたせ、児童の思考の流れに沿ったノート作りをする」等の実践を全校体制で取り組みました。これらの実践を通して、以下の成果が見られました。

- ・どの学年も算数科に対する意欲が向上し、自力解決や話し合い活動に主体的に取り組む児童が増えた。
- ・発達段階に応じた情報整理の仕方を身につけ、見通しをもって学習を進めることができるようになり、自力解決の方法を児童自身の言葉で書ける児童が増えた。
- ・ノート等を活用しながら活発な意見交換が行われるようになった。

干潟小学校では、教員同士の共通理解を図りながら、学力向上に向けた様々な取組を実践していました。また、校内研修においては、若手もベテランも一丸となって思考ツールを用いて活発に意見交換するなど、よりよい授業を作っていこうという姿勢を感じました。今後も学校全体で共通理解を図りながら、学力向上に向けた取組を続けて欲しいと思います。